



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

9月号—No.304
2020.8.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【葡萄染】葡萄葛(エビカズラ)の実のような赤紫色。

エビカズラとは今で言うヤマブドウのこと。平安時代に好まれた色で、日本の伝統色では「ぶどうぞめ」ではなく「えびぞめ」と読み、ヤマブドウで染めるのではなくムラサキソウで染めるのだからややこしい。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

「公共ホール現代ダンス活性化事業」事例紹介

財団からのお知らせ..... 4

令和2(2020)年度地域創造事業の状況について / 全国市町村国際文化研修所(JIAM)「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」の募集開始 / (一財)自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」の募集開始について

今月の情報..... 5

地域通信 / 特集 アートプロジェクト / アーツセンター情報

調査研究事業報告..... 10

2019年度「地域の公立文化施設実態調査」④ 美術館

今月のレポート..... 12

川崎市 ミューザ川崎シンフォニーホール

「フェスタサマーミューザKAWASAKI 2020」

●「公共ホール現代ダンス活性化事業」事例紹介

各プログラムを継続実施で大きな成果を実感

「公共ホール現代ダンス活性化事業」事例紹介



写真1・2：豊岡市民参加公演『リュウグウノツカイ』（2020年1月26日）

3：国立市民参加公演『ENDSCAPES』（2019年12月8日）

4：『ENDSCAPES』クリエイションの様子

●公共ホール現代ダンス活性化事業（通称：ダン活）

地域創造がコンテンポラリーダンスの登録アーティストと専門家のコーディネーターを地域に派遣。コーディネーターのサポートのもと、公共ホールとアーティストが共同で企画した地域交流プログラムや公演を実施する事業。A、B、Cの3つのプログラムを継続して事業実施が可能。旧ダン活に参加したことのある公共ホールも応募可能。

●Aプログラム（地域交流プログラム）
原則として、4日間で学校や福祉施設等でのアウトリーチ、公募ワークショップを4～5回実施するプログラム。

●Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）
原則として、4日間＋5日間など全9日間の日程を2回に分け、市民参加作品を創作し、有料公演を実施するプログラム。また、併せて公募ワークショップを1回実施。

●Cプログラム（公演プログラム）
原則として、4日間で登録アーティストのレパートリー作品の有料公演を実施するプログラム。また、併せて公募ワークショップを1回実施。

●公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）に関する問い合わせ

芸術環境部 粟林・青井・畑
Tel. 03-5573-4055・4077・4075
dankatsu@ajfra.or.jp

地域創造では、現代ダンスのアーティストを地域に派遣する「公共ホール現代ダンス活性化事業（通称：ダン活）」のプログラムを平成29（2017）年度に大幅リニューアル。Aプログラム（地域交流プログラム）、Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）、Cプログラム（公演プログラム）の3つのプログラムが、地域のニーズに合わせた順番で段階的・継続的に実施できるようになりました。今回は、同じアーティストを2カ年招いたプログラム構成で事業を展開し、すべてのプログラムを終了した兵庫県豊岡市の豊岡市民プラザ（指定管理者：NPO法人コミュニティアートセンタープラッツ）と、東京都国立市のくにたち市民芸術小ホール（指定管理者：公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団）の取り組みを紹介します。

●市民と共に舞踏をエンジョイ（豊岡市民プラザ）

豊岡市民プラザ（以下、プラザ）は、豊岡駅とデッキで繋がった再開発ビルの空きフロアを文化施設としてコンバージョンしたもので、長年にわたり市民の幅広い文化活動を支援し

てきたコミュニティホールとして知られていません（平成23（2011）年度地域創造大賞受賞）。2005年度に旧ダン活に参加した経験があり、今回は、1年目（2017年度）と3年目（2019年度）に大駱駝艦の舞踏手である田村一行（B、C）、2年目（2018年度）にコンテンポラリーダンスの鈴木ユキオ（A）を招聘しました。

注目すべきは、舞踏という地域の人に馴染みのない踊りを選び、初年度に田村と市民が一緒に創作を行うBプログラムを実施したことです。Bプログラムでは、アーティストとコーディネーターを計9日間、2回に分けて地域に招聘できます。その間に創作のためのリサーチと下見、市民を対象にした公募ワークショップ（1回）、作品づくりと本番を実施します。プラザでは、初年度に田村が地元・出石神社に祀られているアメノヒボコ（新羅からの渡来人または渡来神）の伝承にインスピレーションを得た『ヒボコノコ』を高校生から60歳代までの市民11人と創作。市民は顔や身体を白く塗り、日常を離れた異形のスタイルになって原初的で自然な自分の心身と向き合い、「そこに在る身体こそが表現」という田村の舞踏をエンジョイしました。

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

その成果を受け継ぐべく、翌年にはプラザの独自市民参加事業として再び田村と大駱駝艦を招聘し、地元・但馬の伝承上の人物で不老不死の実を持ち帰ったという田道間守をモチーフに『叫び哭きて香を唄ふ』を発表。そして3年目に、田村の新作『ノキシタノマロウド』(C)と、3作目の市民参加舞踏『リュウグウノツカイ』(独自市民参加事業。豊岡沖で生きたまま定置網に掛かった幻の深海魚にインスピレーションを得た作品)の公演を実現しました。

『リュウグウノツカイ』を取材しましたが、2011年度からダン活登録アーティストとして土地というルーツに向き合ってきた田村が市民14人、大駱駝艦の舞踏手6名と共に力強い作品をつくり出していました。本番前の楽屋を訪ねると、プラザが長年取り組んできた市民劇団「演劇FACTORY」のメンバーや、市民参加舞踏皆勤賞でこの作品のために剃髪した強者、体験ワークショップでハマった高校生などが自ら練り白粉で顔や手足を白く化粧。塗るたびに普段隠されていたキャラクターが顕わになり、市民から別の存在に変身していました。

プラザ館長の岩崎孔二さんは、「白塗りを楽しみに来ている参加者もいるほど(笑)。ダン活で舞踏を選んだのは、ストーリー性がある演劇に力を入れてきたプラザとして展開しやすいと思ったから。市民参加で市民同士、市民とアーティストが交流できるBプログラムを入り口にするので少しずつ舞踏に馴染んでもらえるのではないかと、作品づくりを通してホールの技術スタッフが鍛えられ、アーティストの考え方がわかるようになるのではないかと考えた。あるがままを認める舞踏や話したくなくれば話さない役をつくれる演劇は間口が広く、多様性を認めあえる表現だと思う。今後も市民参加舞踏は独自事業として継続したい」と話していました。

●全館を使った回遊する体験型パフォーマンスにチャレンジ(くにたち市民芸術小ホール)

くにたち市民芸術小ホールでは、1年目(2017

年度)に田村一行(C)、2年目、3年目(2018・19年度)にコンテンポラリーダンスの東野祥子(A、B)で事業を展開しました。音楽家、映像作家、美術家、照明家、パフォーマー、ダンサーなどがメンバーとなったANTIBODIES Collective(以下、アンチボ)を主宰する東野は、屋内、野外を含めて大掛かりな空間演出を行うパフォーマンスで高く評価されています。その手腕が施設全体を使った回遊型の作品として結実したのが、2019年12月8日に発表したBプログラムの『ENDSCAPES』です。

担当の斉藤かおりさんと竹内恵美子さんは、「現代ダンスが当館にとって非常に有益なジャンルと考え、ダン活後も自立して取り組むための地盤となる事業にしたかった。Bプログラムを最終目標と考えてその前の2年に取り組んだ。施設全体を回遊する公演という当館では前代未聞の企画で、施設の使い方をとらえ直し、市民の当館への期待をいい意味で裏切り、自分の知らないジャンルに積極的にふれようという機運を醸成したかった」と、事業報告書で振り返っていました。

『ENDSCAPES』では、小学3年生から67歳までの市民13人とアンチボメンバーが協働。たくさんのパイプ椅子とテレビモニターを組み合わせたタワーとギャラリー一杯に膨らんだ巨大な布風船の中、怪しい照明に照らされた真っ赤なテーブルクロスを掛けた長机などあちこちに出現した異空間で衣裳を身に纏った市民とメンバーが同時多発的に妖しいパフォーマンスを展開。観客はそれを回遊しながら見た後、ホールに誘導され、全員による群舞でこの終末的なダンスオペラを締めくくりました。

クリエーション期間が短く、全体像が早くわからないなど、広報では苦労することもあるかと思いますが、そうした課題も含めて、ダン活の詳細な報告書がホームページにアップされています。令和3(2021)年度の参加団体の募集は既に締め切りましたが、事業報告書を参照していただき、今後ぜひ参加をご検討いただければと思います。

●2021・2022年度登録アーティスト
北尾亘、白井剛、田村一行、中村蓉、長井江里奈、藤田善宏、マニシア、康本雅子

●公共ホール現代ダンス活性化事業報告書
<https://www.jafra.or.jp/about/report/6812.html>

▼一財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●令和2(2020)年度地域創造事業の状況について

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域創造の主催・共催事業について、2020年5月号でお知らせした事業のほか、下記事業が中止となりました。また、5月号の事業スケジュールでお示したそのほかの事業においても、実施団体の意向を踏まえ、残念ながら中止となった事業、実施予定時期を変更し、新型コロナウイルス感染症拡大予防に十分配慮した上で実施を目指し準備を進めている事業があります。

今後の事業実施スケジュールについては、当財団ホームページの事業実施カレンダーにて、随時更新してまいりますのでご参照いただけますと幸いです。

※公共ホール現代ダンス活性化事業登録アーティストプレゼンテーション(10月6日/横浜赤レンガ倉庫1号館)は非公開で実施します。

◎中止となった事業

- 公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業(長野県)
- 公共ホール演劇ネットワーク事業(長野県上田市、兵庫県伊丹市、北九州市、沖縄県那覇市)

●全国市町村国際文化研修所(JIAM)「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」の募集開始

全国の市町村長・副市町村長および部長級職員を対象に、全国市町村国際文化研修所(JIAM)との共催により「市町村長特別セミナー

『地域経営塾』」を実施します。芸術支援や芸術と社会の関わりについて調査研究、啓発普及に携わっておられる東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科長の熊倉純子先生から「アートで地域社会の縁結び」と題して講演いただくとともに、地域での活動経験が豊富なおんかつ支援アーティストによるミニコンサートを開催します。

研修の詳細および参加方法は、JIAMホームページ(<https://www.jiam.jp>)をご確認ください。

[研修日程]

2020年10月29日(木)、30日(金)

[会場]

全国市町村国際文化研修所(JIAM)
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎2-13-1

[申込締切]

9月7日(月)

[主催・問い合わせ]

(公財)全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所(JIAM)教務部
Tel. 077-578-5932



昨年のミニコンサート(ヴァイオリン:北島佳奈、ピアノ:湯川美佳)

●(一財)自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」の募集開始について

(一財)自治総合センターでは、宝くじの社会貢献広報事業であるコミュニティ助成事業の一環として、公立文化施設の利活用の推進や企画制作能力の向上等を図るため、市(区)町村(ただし政令指定都市を除く。)に対する「地域の芸術環境づくり助成事業」を実施しています。

このたび令和3(2021)年度事業の募集が開始されましたのでお知らせします。締切は

各都道府県の文化担当課へお問い合わせください。

[問い合わせ]一般財団法人自治総合センター

担当: 小林 Tel. 03-3504-0841

※事業の詳細につきましては、(一財)自治総合センターのウェブサイトをご覧ください。

<https://www.jichi-sogo.jp/>

※都道府県から(一財)自治総合センターへの締切は11月30日(月)必着。

- 「市町村長特別セミナー」プログラム
- 地域自立応援施策の動向(総務省地域力創造グループ地域自立応援課)
- 「地方創生」をめぐる最近の動向(内閣府地方創生推進室)
- アートで地域社会の縁結び(東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科長 熊倉純子)
- ミニコンサート(廣田美穂(ソプラノ)、浅野菜生子(ピアノ))
- 持続可能な京都のまちづくり～SDGsの達成へ挑戦と改革～(京都市長 門川大作)
- 荒ぶる災害に向かい合うこれからの防災(東京大学大学院情報学環特任教授 片田敏孝)

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 崎山・児島

●2020年11月号情報締切
9月30日(水)

●2020年11月号掲載対象情報
2020年11月～21年2月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●福島県福島市

福島市振興公社
〒960-8101 福島市上町4-25
Tel. 024-521-1500 舟山洋史
<http://www.f-shinkoukousha.or.jp/terrsa/>

信夫狐の鴨左衛門

劇団120〇EN(ひやくにじゅうえん)は福島市を中心に活動する劇団で、福島市に残る史実や伝承などをモチーフとした作品づくりに取り組んでいる。今回は、園児から小学生までの親子を対象に、同市に伝わる民話「信夫三狐」を基にした創作劇を上演。新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、社会的距離を保った座席配置や換気などを行い、計3公演を実施する。
[日程]8月29日、30日
[会場]福島テルサFTホール

関東

●茨城県水戸市

茨城県近代美術館
〒310-0851 水戸市千波町東久保666-1
Tel. 029-243-5111 吉田衣里
<http://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>

企画展 名作のつくりかた

横山大観や菱田春草など特に人気の高い所蔵作品を中心に、素材や技法、構図などに着目し、作家が作品をどのように構想して完成へと導いたのか、制作の裏側を探る企画展。中村彝や中西利雄、浦田正夫などの作品については、完成作とスケッチや下絵、あるいは作品に描かれたモチーフに注目して画家が遺した家具などと比較することで、作家の意図を読み解く。
[日程]7月11日～9月22日
[会場]茨城県近代美術館

●栃木県宇都宮市

とちぎ未来づくり財団

〒320-8530 宇都宮市本町1-8
(栃木県総合文化センター内)
Tel. 028-643-1010 川原・平久保
<http://www.sobun-tochigi.jp/>

とちぎの若手アーティスト集まれ! Webコンサート

栃木県ゆかりの若手アーティストによる無観客のライブ配信コンサート。コロナの影響で活動が制限されているアーティストを支援するとともに、県民に癒しと元気を届けることを目的として開催する。クラシックおよび邦楽のジャンルでプロとして活躍するアーティスト23組の出演が予定されており、ライブ配信後には、出演グループごとの演奏動画をYouTubeにて公開(栃木県主催)。
[日程]9月12日、13日
[会場]栃木県総合文化センター

●埼玉県富士見市

キラリ財団
〒354-0021 富士見市大字鶴馬1803-1
Tel. 049-268-7788 中出千尋
<http://www.kirari-fujimi.com/>

群読音楽劇「銀河鉄道の夜 2020 キラリふじみ」

桜美林大学プルヌスホールで13年のロングランを重ね、児童福祉文化賞を授賞した作品を、富士見オリジナル版として上演する。キラリ☆ふじみ芸術監督の白神ももこが振付を担当し、演出も新たにプロのアーティストとオーディションで選抜した市民と共に独創的なステージを創作。さまざまな世代の声や演技、ダンス、打楽器の多彩な響きが宮



群読音楽劇「銀河鉄道の夜2019」
(2019年8月/桜美林大学プルヌスホール)

沢賢治の祈りを“今”に浮かび上がらせる。

[日程]9月12日、13日
[会場]富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

●東京都練馬区

練馬区立美術館
〒176-0021 練馬区貫井1-36-16
Tel. 03-3577-1821 眞子みほ
<https://www.neribun.or.jp/museum.html>

練馬区立美術館開館35周年 記念 Re construction 再構築

これまで当館が収蔵してきた作品を4名の現代作家それぞれによる切り口で再解釈を行い、新たな視点を提供。所蔵作品の歴史を紹介した後、画材の選択や個々人の視覚・色覚に左右される「色」、イメージを投影する「メディア」、展示室という「空間」、そしてそれらを受け取る「身体」という4つのセクションをたどりながら美術館における鑑賞全体の再構築へと繋げていく。コロナ対策として、入り口で消毒、混雑状況に応じて入場制限あり。

[日程]8月9日～9月27日

[会場]練馬区立美術館

●神奈川県鎌倉市

鎌倉芸術館
〒247-0056 鎌倉市大船6-1-2
Tel. 0467-48-5500 金指万里子
<https://www.kamakura-arts.jp/>

ランチタイム・コンサート「音楽のチカラ」Vol.3 磯絵里子

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、3月以降自主公演中止を余儀なくされていたが、感染拡大防止策を講じ、新たに1時間のランチタイムコンサートを開催。第3回は鎌倉市出身で、鎌倉芸術館専属の弦楽アンサンブル「鎌倉芸術館グリステン」のメンバーでもある磯絵里子(ヴァイオリン)が出演。“新しい生活様式”の中で安心して楽しめる

よう、千鳥配席や曲間での換気などさまざまな感染対策を講じる予定。

[日程]9月8日

[会場]鎌倉芸術館

北陸・中部

●富山県富山市

富山県民小劇場ORBIS

〒930-0003 富山市桜町1-1-61

マリエとやま7F

Tel. 076-445-4531 板澤繁成

<https://www.bunka-toyama.jp/orbis/>

舞台芸術・芸能一発見ライブ in ORBIS 2020 Vol.139「オンド・マルトノっておもしろい！」

1997年から年間ほぼ6回のペースで著名なアーティストを招いて開催している舞台公演シリーズ。小劇場ならではのコンパクトな空間で、さまざまなジャンルの公演をわかりやすく紹介している。今回は約100年の歴史をもつ電子楽器オンド・マルトノの世界的奏者・原田節が登場。リボン(弦)を自在にスライドさせて不思議な形状のスピーカーを鳴らすことで、さまざまな音色をつくり出すことができる楽器の魅力を身近に味わえる。

[日程]9月8日

[会場]富山県民小劇場ORBIS

●石川県金沢市

金沢21世紀美術館

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

Tel. 076-220-2800 高橋洋介

<http://www.kanazawa21.jp/>

de-sport : 芸術によるスポーツの解体と再構築

東京2020オリンピック・パラリンピックを翌年に控え、芸術の視点からスポーツの意味を問い直す展示会を開催する。国家や戦争、非言語コミュニケーションといった今日の諸問題などを映し出す社会的構造物として、エンターテインメント化された現代のスポーツを9カ国10組の作家の

視点から再考する。コロナ対策のため、日時指定入場制となっており、展示室によっては人数制限を設けている。

[日程]6月27日～9月27日

[会場]金沢21世紀美術館



ガブリエル・オロスコ《ピン=ポンド・テーブル》(1998年/金沢21世紀美術館蔵)
©Gabriel OROZCO
photo: KIOKU Keizo

●山梨県甲府市

YCC県民文化ホール

〒400-0033 甲府市寿町26-1

Tel. 055-228-9131 加藤信一

<http://www.yamanashi-kbh.jp/>

演劇『ウラシマコタロウ』

「浦島太郎」をモチーフにして現代っ子の日常を描く演劇公演(作・演出:はしもとじろう)。娯楽性の高い作品ながら、友情やいじめ、偏見、家族など、主人公・浦島小太郎にまつわるさまざまな出来事が綴られ、子どもにとって貴重な演劇体験になる作品。山梨出身の女優・廣瀬響乃が出演するほか、竜宮城でのエンタメショーに県内で活動するバレエ団など3つのジュニア団体が出演する。

[日程]9月19日

[会場]YCC県民文化ホール(山梨県立県民文化ホール)

●岐阜県岐阜市

サラマンカホール

〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-53

Tel. 058-277-1113 竹内香織

<https://miwafest.net>

ぎふ未来音楽展2020 三輪眞弘祭 一清められた夜

音楽と観客の一体空間という、

かつて当たり前だった姿が成り立たなくなったポストコロナ時代に、音楽は社会の中でどう生き延びていくか。現代音楽家・三輪眞弘を招き、サラマンカホール初の試みとして、ダンスやMIDIアコーディオン、オルガン、琴などさまざまなジャンルと映像による無観客・ネット配信によるコンサートを開催する。23時開演・26時終演と開催時間も特徴的。世界初演とされる新作『鶏たちのための五芒星』も演奏される。

[日程]9月19日

[会場]サラマンカホールよりライブ配信(視聴無料)

●静岡市

静岡市文化振興財団

〒420-0851 静岡市葵区黒金町1-9

Tel. 054-251-2200 小林旬

<https://www.aoi.shizuoka-city.or.jp/>

静岡・室内楽フェスティバル2020 2020しずおか文化プロジェクト「静岡の名手たち」によるコンサート

「静岡の名手たち」は、1995年の開館以降、毎年開催されているオーデションで、静岡の音楽家たちの登竜門的な存在となっている。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、今年内容は変更し、これまでの合格者の中で静岡県内を拠点に活動している演奏家が出演するコンサートを実施する。バロック時代のフルートやチェンバロ、世界的にも珍しいソプリロ(ピッコロ・サクソフォン)も演奏される。

[日程]9月26日

[会場]静岡音楽館AOI

●名古屋市

名古屋市文化振興事業団

〒454-0874 名古屋市中川区

吉良町178-3

Tel. 052-369-1845 北山奈津美

<https://www.bunka758.or.jp/>

中川文化小劇場×劇団うりんこ なんてみる? やってみる! 小学生のための演劇から学ぶコミュニケーション講座

名古屋市を拠点に活動する「劇団うりんこ」の団員を講師に招き、小学3～6年生を対象とした全6日間のワークショップを開催。演劇的な手法を用いながら参加者全員で芝居づくりを行い、コミュニケーション能力の向上を図る。新型コロナウイルス感染拡大の影響から、劇団による関連公演「夏休みこども劇場」は中止となったが、本講座は感染症対策を講じた上で実施される。

[日程]9月1日、2日、8日～11日

[会場]中川文化小劇場

●愛知県刈谷市

刈谷市総合文化センター

〒448-0858 刈谷市若松町2-104

Tel. 0566-21-7430 井野徳明

<https://kariya.hall-info.jp/>

刈谷市総合文化センター管弦楽団 第4回定期演奏会～古典から現代へ/ベートーヴェンとRayons～

2015年に結成されたレジデントプロオーケストラ・刈谷市総合文化センター管弦楽団の定期演奏会。今回はふたりのレジデントアーティスト(指揮:濱津清仁、ピアノ:近藤由貴)と共に、生誕250周年を迎えるベートーヴェンの交響曲第2番を披露するほか、恒例の委嘱作品は刈谷市出身の作曲家Rayons(作曲家・ピアニスト中井雅子のソロプロジェクト)の作品を世界初演する。

[日程]8月29日

[会場]刈谷市総合文化センター

アイリス

近畿

●三重県津市

三重県文化会館

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

〒514-0061 津市一身田上津部田1234

Tel. 059-233-1100 小林由梨佳
<https://www.center-mie.or.jp/bunka/>

FUKAIPRODUCE羽衣『スモール アニマル キス キス』

独創的な歌とダンスと人間力で表現する妙なミュージカル“妙〜ジカル”という上演スタイルで東京を中心に活躍する深井順子主宰、糸井幸之介作・演出・音楽のカンパニーFUKAIPRODUCE羽衣の演劇公演。2018年にミエ・ユース演劇ラボで制作した『よるベナイター』に続き3度目の登場となる今回は、人間の業を、小動物を愛でる心で鎮める新作“妙〜ジカル”を上演する。

[日程]9月12日、13日
[会場]三重県文化会館

●京都市

ロームシアター京都
〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13

Tel. 075-771-6051 宮崎麻子
<https://rohmtheatreyokyo.jp/>

地点『君の庭』

ともに京都を拠点とする劇団・地点と劇作家・松原俊太郎が「劇場」『オンライン』の2つの空間で発表する。作品のテーマは「天皇制」。法の下での平等、健康で文化的な最低限度の生活、国民の総意…といった、暗黙裡に引き継がれた文言の実態を暴き、外へと脱出を試みる人物を通じて改めて言葉・声・自由を問う。オンライン版と劇場版は相互補完的なものとして存在し、オンライン版はいわゆる劇場中継ではなく、舞台上の出来事に映像演出を加えた内容になる予定。

[劇場版日程]9月14日～22日
[会場]ロームシアター京都
[オンライン版配信日程]9月14日～10月18日(PIA LIVE STREAM)

●大阪府河内長野市

河内長野市文化振興財団
〒586-0016 河内長野市西代町12-46

Tel. 0721-56-6100 相輪研二
<https://lovelyhall.com/>

奥河内音絵巻2020 vol.6 ～日月山水図の謎～

音楽家のサキタハチメが芸術監督を務め、自然・歴史・人々など、奥河内でインスピレーションを受けたものを音や光で表現する「奥河内音絵巻」シリーズの第6弾。今回は、光の切り絵作家・酒井敦美と、デジタル復元師・小林泰三が共演。河内長野が誇る国宝「日月四季山水図屏風」の美しい四季の世界を、本公演のスペシャルバンドや地元市民の演奏とともに楽しめる。

[日程]9月12日、13日
[会場]河内長野市立文化会館(ラプリーホール)

●大阪府茨木市

茨木市文化振興財団
〒567-0888 茨木市駅前4-6-16
Tel. 072-625-3055 安藝しのぶ
<https://www.ibabun.jp/>

横山佳世子の邦楽サロンVol.19 箏とJazzの出逢い

茨木市在住の箏曲家・横山佳世子とジャズピアニストとしても活躍中の柳原由佳がトークを交えながらスタンダードなジャズから、クラシックやディズニー、ポピュラー、演歌などをピアノと箏で奏でる邦楽サロン。曲目は『Take Five』『テネシーワルツ』『主よ、人の望みの喜びよ』『いつか王子様が』『りんご追分』や、柳原のオリジナル曲『さくら』などを予定。

[日程]9月6日
[会場]茨木市クリエイティブセンター(市民総合センター)

●兵庫県西宮市

西宮市大谷記念美術館
〒662-0952 西宮市中浜町4-38

Tel. 0798-33-0164 枝松亜子
<http://otanimuseum.jp/>

西宮市大谷記念美術館の〈展覧会とコレクション〉2 ひもとく美術館ヒストリー

美術館の展覧会とコレクションの繋がりを紐解く企画展。第2弾となる今回は、1997年以降に個展を企画・開催した現代美術作家に焦点を当てる。地元作家たちの表現の広がりに伴い始まった現代美術作品の収集が、コレクションの幅を広げていったその歩みを、16作家36点の作品を通して紹介する。なお、コロナ対策として入場者には、入館した日時がわかるように入館確認証を発行する。

[日程]7月18日～9月27日
[会場]西宮市大谷記念美術館

●兵庫県豊岡市

豊岡市民プラザ
〒668-0031 豊岡市大手町4-5
アイティ7F

Tel. 0796-24-3000 野村聡子
<http://platz-npo.com/>

豊岡市民プラザ演劇プロジェクト 内藤裕敬と関西の俳優たち×市民演劇『豊岡かよっ!』

豊岡の演劇活動の発展を目指す地域密着型演劇プロジェクト。5回目となる今回は、関西演劇界の第一人者、内藤裕敬(南河内万歳一座・座長)作・演出による新作書き下ろし演劇作品を上演。公募で集まった市民13人が、関西を中心に活躍するプロの俳優陣と共に8月下旬よりクリエイションを行い、豊岡をモチーフとした作品に取り組む。

[日程]9月5日、6日
[会場]豊岡市民プラザ

中国・四国

●山口県美祿市

秋吉台国際芸術村
〒754-0511 美祿市秋芳町秋吉50

Tel. 0837-63-0020 高木絃子
<https://aiav.jp/>

ペルセポリス～秋吉台で聴く テープ音楽～

テープに録音した音を素材に音楽を構築する手法「テープ音楽」にスポットを当てた一夜限りの公演。屋外舞台「中庭」の四方八方に多数のスピーカーを配置し、オリジナルの複数の再生チャンネル音源を用いた上演という近年国内では他に例のないものとなる。音楽家の有馬純寿、足立智美と太田真紀(ソプラノ)により、ヤニス・クセナキスが作曲した『ペルセポリス』(日本初演)をメインに、湯浅譲二ほか芸術村にゆかりのある作曲者が取り上げられ、テープ音楽に照明演出を加えた上演となる。有馬と足立によるテープ音楽の魅力についての対談も予定。

[日程]9月5日
[会場]秋吉台国際芸術村コンサートホールおよび中庭

九州・沖縄

●宮崎県宮崎市

宮崎県立芸術劇場
〒880-8557 宮崎市船塚3-210
Tel. 0985-28-3208 露木拓真
<http://www.miyazaki-ac.jp/>

なるほどクラシックコンサート Vol.9「ベートーヴェンからブラームスへ」

国内外で活躍する演奏家と、宮崎県在住・出身の演奏家による競演、宮崎県立芸術劇場音楽事業アドバイザー・桐原直子のトークにより構成されたコンサートシリーズ。今回はベートーヴェン生誕250周年を記念し、ベートーヴェンからブラームスに続くドイツ音楽の本流について、「なるほど」と納得しながら、クラシック音楽を楽しむことができる。
[日程・会場]9月12日:メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)、9月13日:小林市文化会館

特集 アートプロジェクト

全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクトを紹介いたします。

※開催地の北から順に掲載。

☒は会場、☒は問い合わせ先です。
(➡は地域創造助成事業)

●山形県山形市 9月5日～27日 みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2020

アートで山形からゆるやかに東北を拓き、その魅力を発信していく芸術祭。4回目となる今年には新たな芸術監督に現役医師の稲葉俊郎氏を迎え、山形市中心市街地を舞台に多くの学生や住民が参加する形で開催を予定していたが、移動や接触が制限される状況を受け、オンライン型に切り替えて開催。命を取り巻く全体性をテーマに、コンテンツ配信や各種メディアミックスの実験的な試みを行い、今だからこそ共有すべき芸術と生命の本質を投げかける。

☒オンライン

<https://biennale.tuad.ac.jp/>

☒東北芸術工科大学 山形ビエンナーレ事務局

Tel. 023-627-2091

●東京都豊島区

9月30日～11月29日

東京芸術祭2020

東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界と繋がることを目指した都市型の総合芸術祭。豊島区池袋エリアを中心に、2016年から開催している。今年は関係各所と協力しながら徹底した感染症拡大防止に取り組み、安心安全な形での開催を目指すだけでなく、これからの新しい舞台芸術の在り方を提案するため、多様な実施形態を検討している。

☒東京芸術劇場、あうるすぽっとほか
☒東京芸術祭実行委員会事務局 Tel. 050-1746-0996

●横浜市 7月17日～10月11日

ヨコハマトリエンナーレ2020 「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」

3年に1度開催される現代アートの国際展。今回は、世界で活躍するインドの3人組アーティスト集団「ラクス・メディア・コレクティブ」による企画のもと、目まぐるしく変化する世界の中で、大切な光を自ら発見してつかみ取る力と、他者を排除することなく、共生のための道を探る術について考える内容となっている。コロナ対策として、チケットは日時指定予約制とし、会場内ではフロアマーカ―等を設置し、来場者同士の距離を確保するなどの取り組みを行っている。

☒横浜美術館、プロット48

☒横浜トリエンナーレ組織委員会事務局 Tel. 050-5541-8600



ヨコハマトリエンナーレ2020展示風景より
ニック・ケイヴ《回転する森》(2016/2020)
©Nick Cave 撮影:大塚敬太
写真提供:横浜トリエンナーレ組織委員会

●滋賀県近江八幡市、彦根市

10月10日～11月23日

BIWAKOビエンナーレ2020 “森羅万象～COSMIC DANCE”

2001年に始まった民間主導の国際芸術祭。近江八幡市旧市街地の町家や旧工場、元造り酒屋など伝統的建造物の保存と継承の方法をアートに見出す

うとする試み。参加アーティストやインターン生たちは、地元のお祭りの山車づくりにも参加するなど、回を重ねるごとに地域との関係が深まっている。海外5カ国を含め国内外から約60組が参加する今回は、近隣の彦根市にも会場を拡大。国宝彦根城の櫓や庭園、市街地のレトロな商店街など魅力溢れる舞台に、さまざまなアートが展開される。
☒近江八幡市、彦根市市街地ほか
☒BIWAKOビエンナーレ実行委員会事務局(NPO法人エナジーフィールド内)
Tel. 0748-26-5832

●大阪市 9月13日～19日

大阪クラシック2020

大阪のメインストリートである御堂筋や水の都大阪を象徴する中之島エリアを中心に2006年から毎年開催している音楽祭。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、街中のオフィスビルのロビーやカフェ、ホテルなどを会場とした無料公演は開催せず、ソーシャルディスタンスを確保しての有料公演や、ステイホームでも楽しめる動画配信といった今年限りの内容で開催予定。

☒大阪市中央公会堂ほか

☒大阪クラシック実行委員会

Tel. 06-6469-5176

●神戸市 9月12日～11月23日

六甲ミーツ・アート 芸術散歩2020

優れた景観や自然環境、歴史や文化とともに、現代アートをハイキング気分でも楽しめる野外展覧会として2010年より開催。11回目の開催となる今年、新たにサテライト会場として有馬温泉エリア、JR神戸駅が加わり、40組を超えるアーティストの多くが展覧会に合わせて新作を披露する。

☒六甲ガーデンテラス、自然体感展望台 六甲枝垂れなど12会場
☒六甲ミーツ・アート 芸術散歩2020インフォメーション
Tel. 078-891-0048

●奈良県吉野町、天川村、曾爾村 10月3日～11月15日

MIND TRAIL 奥大和 心のなかの美術館

今年初めての開催で、自然豊かで広大な吉野町・天川村・曾爾村を会場とした芸術祭。3つのエリアを時間をかけて歩くことで、自然に包まれながら、各エリアに設置されたアート作品を鑑賞・体験できる。参加者に奥大和地域の魅力を再発見してもらい、普段は意識しない自然や人々との関わりによって関係人口(観光以上移住未満の地域に多様に関わる人々)を生み出すことを目的としている。

☒吉野町、天川村、曾爾村内各所
☒奥大和地域誘客促進事業実行委員会 Tel. 0744-48-3016

●香川県綾川町

10月24日～11月15日

かがわ・山なみ芸術祭2020 AYAGAWA

香川県内のアーティストと地域住民によって2013年より始まり、地域のもつ歴史や地理的由来を活かした民間主導のボトムアップ型の芸術祭。今回は「解放」をテーマに、全国公募30名の現代アーティストの美術作品を中心に、綾川町を舞台に創作した歌「綾川の山なみ」のPR動画を撮影・配信するほか、展示作品の制作ワークショップ、地元マルシェなど、アーティストと住民、行政が協働した「ものづくり」「ことづくり」を行う。

☒綾川町内各所

☒かがわ・山なみ芸術祭2020 AYAGAWA実行委員会事務局

Tel. 090-7577-9114

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

●福島県会津美里町

会津美里町役場本庁舎兼複合文化施設(じげんプラザ)

〒969-6292 大沼郡会津美里町字新布才地1

Tel. 0242-55-1122

<https://www.town.aizumisato.fukushima.jp/030/index.html>

◎2019年5月7日オープン



2005年に会津高田町、会津本郷町、新鶴村が合併して誕生した会津美里町は、本庁舎機能を旧町村庁舎に分散して行政サービスを提供していたが、高田庁舎並びに旧会津美里町公民館の老朽化や耐震性不足などで安全性を確保できないことから、機能を集約化した総合庁舎としてオープン。

積雪対策として落雪型の切妻屋根が特徴的な建物は、西側が庁舎機能、通路で繋がる東側が公民館や町で初めての図書館、コンサートや講演会などさまざまなニーズに対応した平土間式の「じげんホール」などを有した複合文化施設エリアとなっており、「美里のひろば、私のひろば」を基本理念に、町民がいつでも集え、運営にも参加できるまちづくりの新たな拠点、またいつでも音楽や読書を楽しむことができる文化創造拠点として大きな役割を担う。

[オープニング事業]「出張!なんでも鑑定団in会津美里」ほか
[施設概要]多目的ホール(349席)、音楽室、研修室、会議室、図書館ほか

[設置・管理・運営者]会津美里町
[設計者](株)清水公夫研究所

●石川県野々市市

にぎわいの里のいち カミーノ

〒921-8815 野々市市本町2-1-20

Tel. 076-248-0521(公民館)

<https://www.city.nonoichi.lg.jp/site/camino/>

◎2019年4月1日オープン



多くの文化的・歴史的資源を有する市中央地区の都市再生整備の一環として、市立図書館と中央・野々市公民館の跡地を活用し、公民館と市民連携拠点、民間商業施設の3つの機能を一体化した複合施設としてオープン。スペイン語で「道」を意味する愛称は、かつて交通の要衝として栄えた旧北国街道の近傍に位置することに由来する。

公民館や市民協働のまちづくりの拠点となる市民活動センターをもつ公共棟は、1階から3階までの吹き抜けで、「にぎわい街道」と呼ばれる回遊導線が各階の部屋や空間を繋ぎ、館全体の活気を生み出す構造となっている。民間棟「1の1 NONOICHI」は、市内外の物産品を扱うショップやカフェ、シェアオフィスなど多彩な機能を持ち、幅広い世代の市民が集うコミュニティ拠点として、エリア一帯のにぎわい創出を目指している。

[オープニング事業]オープニングイベント(カミーノ寄席、カミーノJAZZ LIVEほか)

[施設概要]ホール(300名)、多目的室1・2、市民活動交流サロン、図書コーナーほか

[設置者]野々市市

[管理・運営者]野々市市、野々市市観光物産協会

[設計者](株)梓設計

●高知県土佐市

土佐市複合文化施設つな一で

〒781-1102 土佐市高岡町乙3451-1

Tel. 088-852-2111

<http://www.city.tosa.lg.jp/tsuna-de/>

◎2020年2月22日オープン



市民図書館・ホール・中央公民館の老朽化に伴い施設を集約し、「生涯学習と創造を支援し地域の福祉と活力を支える新拠点」を基本理念として開館した複合文化施設。

建物は地上3階・地下1階建て(M2階あり)で、市民図書館、ホール・貸館などの地域交流センター、観光交流センターから成り、さまざまな市民ユースに対応。ホールは1階席を壁面に収納することで平場のイベントスペースとしても活用でき、また1階席を収納した際もM2階席と2階席を使用できるため、舞台・イベントスペース・客席を多目的に使用可能。「つな一でラウンジ」「ほそ道ギャラリー」「より道ギャラリー」など広い共用空間を活用し、ホールと一体化した展示会なども開催可能となっている。

今後は市民の文化芸術活動を促進し、地域のプラットフォームとなることを目指す。

[オープニング事業]開館記念餅投げ ほか

[施設概要]ホール(632席)、大会議室(約310m²)、図書館、多目的室7室(約10~110m²)、工作室(約65m²) ほか

[設置・管理・運営者]土佐市
[設計者]マルアーキテクチャ・聖建築研究所設計共同企業体

写真撮影の許可が進み、展示解説の多言語化も進展

2019年度 「地域の公立文化施設実 態調査」④

美術館

*2019年度「地域の公立文化施設実態調査」報告書は、地域創造ホームページに掲載しています。
<https://www.jafra.or.jp/library/report/2019/index.html>

●2019年度「地域の公立文化施設実態調査」調査概要

◎調査対象

公立文化施設のうち、「専用ホール」、「その他ホール」、「美術館」、「練習場・創作工房（アーティスト・イン・レジデンス施設を含む）」およびそれらを含む「複合施設」と、施設の設置主体にあたる地方公共団体。

◎調査時期

2019年9月～11月

◎調査方法

全国の地方公共団体の文化振興担当者に、当該団体が設置主体となっている調査対象施設を記入する「施設設置一覧記入票」と「地方公共団体向け調査票」、「施設調査票」を配布。当該団体において「施設設置一覧記入票」と「地方公共団体向け調査票」の記入および「施設調査票」の各施設への配布と取りまとめをしていただいた。

◎調査回収数

●地方公共団体票の有効回収数

1,645（都道府県47（100%）、政令市20（100%）、市区町村1,576（91.6%）、一部事務組合2）

●地方公共団体からの回答

3,442館 延べ3,671施設
（「専用ホール」1,483、「その他ホール」1,363、「美術館」648、「練習場・創作工房」177）

●地方公共団体から回答があった3,442館のうち、施設からの施設調査票の有効回収数

3,343館 延べ3,568施設
（「専用ホール」1,455、「その他ホール」1,310、「美術館」628、「練習場・創作工房」175）

●調査研究に関する問い合わせ

芸術環境部 児島
Tel. 03-5573-4183

今回は「地域の公立文化施設実態調査」報告の最後として、「美術館」に関する主な調査結果を紹介する。なお、今回調査の対象となった「美術館」648施設（地方公共団体からの回答により把握した施設数。2014年度調査では638施設）のうち、施設側から有効回答があったのは628施設である。

●回答施設の概況

回答があった628施設を設置主体別に見ると、都道府県83施設（13.2%）、政令市42施設（6.7%）、市区町村503施設（80.1%）だった。また、管理運営形態別では、指定管理が247施設（39.3%）、直営が381施設（60.7%）となっている（専用ホールの指定管理の比率は62.6%）。2014年度調査と比較すると、指定管理の比率が35.0%から39.3%へと増加している[表1]。

●施設の運営状況（スタッフ数・専門職員の有無・収入）

2019年9月時点での美術館全体のスタッフの平均合計人数は8.6人で、内訳は、学芸員3.2人、学芸員以外の事業系スタッフ3.0人、施設管理系スタッフ2.3人、総務系スタッフ2.9人となっている。設置主体別では、施設規模の大きい都道府県（19.6人）、政令市（17.4人）が多く、市区町村（6.0人）との差が顕著だった[表2]。なお、教育普及については、「専門セクションがある」「セクションはないが専門の担当者がある」を合わせると都道府県33施設（39.7%）、政令市14施設（33.3%）、市区町村50施設（10.0%）だった。

2018年度決算金額による施設収入金額は、直営施設で平均65,232千円、指定管理施設で平均131,442千円だった。

●自主事業の実施

展覧会や教育普及事業等の自主事業を実施している美術館は全体の92.2%（有効回答数628）だった。また、自主事業実施施設のうち、69.3%が「常設展と企画展の両方」を実施し、「企画展のみ」が21.6%、「常設展のみ」が6.6%

だった[図1、2]。

展覧会以外の自主事業としては、「ギャラリートーク」（72.7%）、「館内でのワークショップ」（64.9%）、「講演会」（54.9%）、「学校向け団体鑑賞」（51.5%）、「他ジャンルのイベント（音楽、演劇、ダンス等）」（42.5%）、「学芸員による出前授業」（39.0%）などの実施割合が高い[図3]。

また、近年注目されているアートプロジェクトについては、「地域と関わって展開するアートプロジェクト（美術館外を含む）」を実施している美術館が18.7%あった。ちなみに、地方公共団体におけるアートプロジェクト（美術館に限らず）の実施状況については、全体で見ると「現在実施している」は14.6%に止まるが、都道府県（53.2%）、政令市（55.0%）では半数以上の地方公共団体が実施していると回答した[図4]。

●美術館運営の動向（写真撮影・多言語化・夜間延長）

2019年度調査では、近年、美術館運営上のトピックとなっている館内における写真撮影の可否、多言語化対応についても実態を把握した。まず、館内において美術品の写真撮影を許可しているかについては、「全面禁止」している美術館が32.3%であるのに対し、「一部認める」（59.4%）、「全面的に認める」（7.1%）と全体のほぼ3分の2が写真撮影を何らかの形で認めていることが明らかとなった[表3]。

一方、多言語化対応については、展示物の解説まで踏み込んだ実施状況を調査した。全体で見ると「行っている」（18.7%）、「検討中だが実施していない」（21.2%）だったが、設置主体別では、都道府県施設が46.3%（検討中を含めると73.8%）、政令市施設が31.7%（同51.2%）と解説の多言語化への積極的な対応が明らかとなった[表4]。

また、「夜間延長をした」施設は全体の26.9%だった。2014年度調査の19.5%と比べると大きく増加している。設置主体別では、都道府県（53.0%）が政令市（31.0%）、市区町村（22.3%）を大きく上回っている。

表1 設置主体別、管理運営形態別／施設内容内訳(%)

		設置主体別			管理運営形態別	
		都道府県	政令市	市区町村	指定管理	直営
2019年度	施設数	83	42	503	247	381
	(%)	13.2	6.7	80.1	39.3	60.7
2014年度	施設数	84	40	484	212	394
	(%)	13.8	6.6	79.6	35.0	65.0

表2 スタッフ数の平均(人)(設置主体別)

	有効回答数	合計数	学芸員	学芸員以外の事業系スタッフ	施設管理系スタッフ	総務系スタッフ	正規職員
美術館全体	606	8.6	3.2	3.0	2.3	2.9	4.7
都道府県施設	82	19.6	7.2	5.3	4.0	6.4	12.0
政令市施設	42	17.4	5.2	6.2	3.9	3.4	9.1
市区町村施設	482	6.0	2.2	2.1	1.8	2.2	3.0

図1 2018年度 自主事業の実施状況と担い手(%) [N=628]

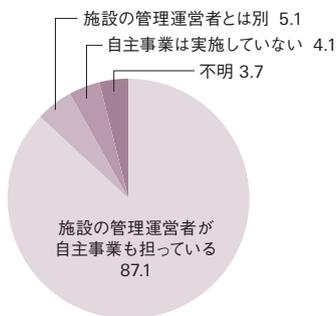


図2 2018年度 自主事業(展覧会)の実施状況(%) [N=579]

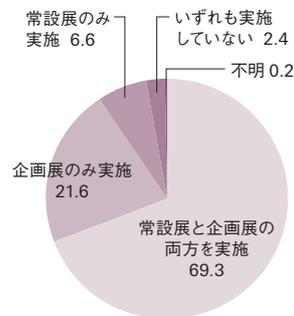


表3 美術品の写真撮影の認可状況(%) (設置主体別)

	有効回答数	全面的に禁止している	一部認めている	全面的に認めている	不明
美術館全体	579	32.3	59.4	7.1	1.2
都道府県施設	80	17.5	78.8	1.3	2.5
政令市施設	41	22.0	73.2	4.9	-
市区町村施設	458	35.8	54.8	8.3	1.1

表4 多言語での解説表示の実施状況(%) (設置主体別)

	有効回答数	行っている	現在検討中だが、まだ実施していない	今のところ検討していない	不明
美術館全体	579	18.7	21.2	58.7	1.4
都道府県施設	80	46.3	27.5	23.8	2.5
政令市施設	41	31.7	19.5	48.8	-
市区町村施設	458	12.7	20.3	65.7	1.3

図3 2018年度の展覧会以外の自主事業の種類(MA)(%) [N=579]

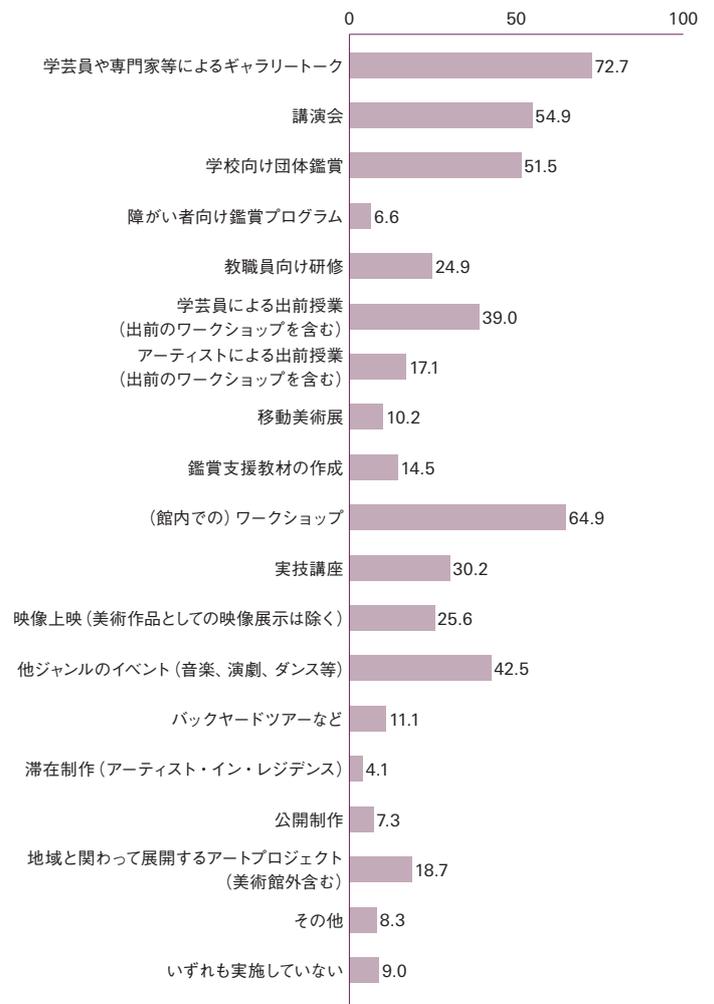
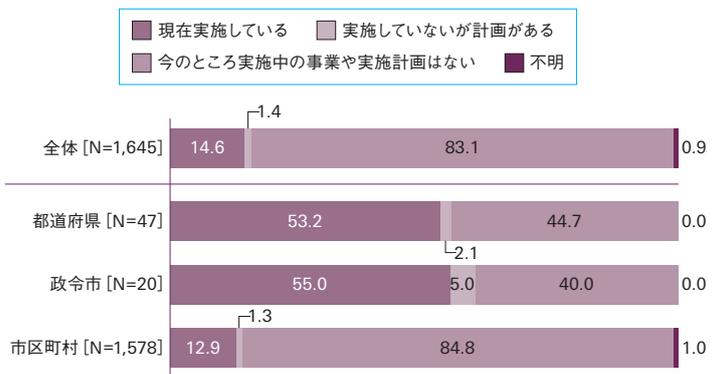


図4 アートプロジェクトの有無(%) (団体種別)



▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

川崎市

ミュゼ川崎シンフォニーホール 「フェスタサマーミュゼ KAWASAKI 2020」



東京交響楽団オープニングコンサート(7月23日)
©青柳聡

●フェスタサマーミュゼKAWASAKI 2020 (7月23日～8月10日)
「音楽のまち・かわさき」のシンボルとして2004年に誕生したミュゼ川崎シンフォニーホール(指定管理者:川崎市文化財団グループ)が開館翌年の05年より毎年開催している夏の音楽祭。首都圏のプロオーケストラが一堂に会することが特徴で、今年は全17公演が行われた。オンライン鑑賞券はライブ配信サービス「TIGET(チゲット)」から購入でき、ほぼすべての公演のアーカイブ映像は8月末まで配信されている。

*「川崎市&東京交響楽団 Live from Muzal! マッチングギフトコンサート」はコンサートを通して東京交響楽団に寄せられた支援(寄付)に対し、川崎市が寄付金額と同額相当(上限1千万円)分の支援を翌年に降に開催される楽団主催公演のチケットを購入する形で行うもの。6月23日、27日、7月3日の3回開催され、各演奏会のアーカイブ映像は9月30日まで「ニコニコ生放送」で視聴できる。

クラシック音楽公演の関連団体は、5月20日に新型コロナウイルス感染症への対策を検討する「クラシック音楽公演運営推進協議会」を設立するなど、演奏会の再開に向けて動いてきた。そのなかで首都圏のオーケストラが一堂に会することで知られる「フェスタサマーミュゼ KAWASAKI 2020」(以下、サマーミュゼ)が7月23日に開幕。今年は首都圏のプロオーケストラ9団体他が顔を揃え(海外公演のため出演予定がなかった東京都交響楽団を除く)、客席数を限定したホールでの生演奏会と有料ライブ配信のハイブリッド型で開催に漕ぎ着けた。

オープニングを飾ったのは川崎市フランチャイズオーケストラの東京交響楽団。当初は音楽監督ヨナサン・ノットが出演予定だったが、政府による入国制限措置により来日が不可能に。メインプログラムも大編成で知られるマーラーの交響曲第5番からベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」に変更し、団員たちは事前に収録された映像で指揮をするノット氏を観ながら熱のこもった演奏を行った。1,997席あるコンサートホールで発売されたチケットは、左右1席ずつ空けて発売される1名席と子連れや介助などに配慮した2名ペア席を合わせて計600枚。実際にホールに足を運ぶことのできない観客向けにはオンライン鑑賞券が発売され、公演当日のライブ配信だけでなくアーカイブ映像も観ることができる。日々変化する感染拡大状況のな

か、公演実施を決断するまでの経緯について事業部長の竹内淳さんは次のように話す。

「川崎市は2月末の時点で、貸館のキャンセルが生じた場合、ホール利用料金については市が調整するので利用者に返金してよいと決定していた。利用料金制を取っている私たち指定管理者にとって、早い時期から設置自治体の理解が得られたことは有難かった。またホールの主催事業についても、感染拡大防止のための経費は市が調整するので積み上げてほしいという指示があった。市も我々も真っ先に心配したのは、フランチャイズオーケストラである東京交響楽団の出演料をどのように確保するかということ。3月以降ミュゼで行われた東京交響楽団の無観客コンサートはニコニコ動画でライブの無料配信を実施したが、その中で市長自らが発案し、寄付金を呼びかけるマッチングギフトコンサート(*)も行われた。

2011年東日本大震災の際もミュゼの施設が甚大な被害を受け、この年だけはサマーミュゼを中止にせざるを得ないと市役所に報告しに行ったとき、市長から『今こそやるべきじゃないか。学校の体育館でもできるじゃないか』と怒られたのを覚えている。それ以来、市民に音楽を届けるミッションを途絶えさせてはいけない思いは一層強くなり、今年もサマーミュゼ自体を中止にすることは当初から考えていなかった。職員からアイデアを募り、小規模な形での実施など色々な可能性を模索したが、各楽団と協議した結果、音楽大学1校とジュニアオーケストラを除いて当初出演予定だったすべてのオーケストラが映像配信ありの参加を了承してくれた。

6月16日には『キープディスタンス』試演コンサートを実施して、感染症対策を講じる上での課題を点検した。楽屋周りの対応については各オーケストラにお任せしているが、楽員間の距離の取り方やマスクを着けるかどうかなどの対応はさまざま。市民の根底に流れている音楽のまちへのプライドや愛着を改めて感じた今回、一度動き出した『音楽のまち・かわさき』の流れを止めてはいけないという思いを新たにした」
(横堀応彦)

●ミュゼ川崎シンフォニーホールの新型コロナウイルス感染症への対応

3月6日	3月31日までの主催公演中止を発表
3月8日、14日	無観客コンサートとニコニコ生放送による無料配信「東京交響楽団Live from Muzal!」を開催し、延べ20万人以上が鑑賞(録音・制作したCDは後日一般販売)
3月16日	3月25日に予定していた対面でのサマーミュゼ記者発表会の中止を発表
3月25日	サマーミュゼラインナップ(当初プラン)を発表
4月3日	サマーミュゼのチケット発売延期を発表
4月9日	4月11日から5月6日まで臨時休館を発表(※その後5月31日まで休館延長)
5月14日	公益社団法人全国公立文化施設協会が「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を公開(5月25日に一部改訂)
5月20日	クラシック音楽公演を運営する関係者・団体による「クラシック音楽公演運営推進協議会」が設立
6月1日	ホール営業再開、今後の主催公演チケット発売一時休止
6月16日	「キープディスタンス」試演コンサートを実施、サマーミュゼ「ハイブリッド開催」発表
7月23日、27日、7月3日	川崎市&東京交響楽団 Live from Muzal! マッチングギフトコンサートが開催
7月23日	サマーミュゼの新ラインナップ発表
7月10日	記者発表会開催、ミュゼ友の会会員向け先行抽選開始
7月17日	一般発売開始
7月23日	サマーミュゼ開幕